

JIM-NET アルビル事務所現地スタッフ・リームが来日しました！

シリア難民の「今」を伝えたい

佐藤真紀（JIM-NET 事務局長）

シリアの内戦が始まり 7 年半が経過した。アラブの春に感化され、市民が民主化をうたった革命は、政府軍から離反した自由シリア軍による武力闘争へと駒を進めた。しかし、新しいシリアへのマニフェストが作れず、ジハード、つまりイスラム教徒としての復讐や聖戦を掲げるアルカーイダ系のヌスラ戦線や、イスラム国 (IS) などのグループが台頭する。

IS は、アメリカの支援を受けたクルド人を中心とした部隊 SDF がラッカを解放し、ほぼ壊滅状態になった。ヌスラ戦線などその他のジハーディストは、分裂しながらも、イドリブを拠点に最後の抵抗を試みている。

アサド政権は、ロシア軍の後ろ盾を得て、間もなくイドリブの総攻撃を開始するのではないかとされている。もし、攻撃が始まれば、200 万人から 300 万人といわれている住民たちのライフラインが絶たれ、80 万人が難民化すると国連 (UN) は警告している。

もともとシリアには、別のストーリーが存在した。

クルド問題である。人口の 8 ～ 10% を占めるクルド人は、北東部のトルコと国境を接するカミシリやハッサケに多く住む。

クルド人は、差別されてきた。国籍を与えられない人たちもあり、「アラブの春」に乗じて彼らは、国籍を求めるデモを行った。アサド政権は、彼らの要求を受け入れたが、内戦へと突入すると、クルド人居住地域には、トルコ国内のクルド政党 PKK の影響を



内戦から 7 年半、ヨルダンで避難生活が続けるシリア難民の子どもたち

受けたクルド人民防衛隊 (YPG) が生まれる。

PKK はマルクス・レーニン主義を掲げ、1980 年代から武器を取ってトルコ政府のクルド人弾圧と激しく戦ってきた。トルコは PKK をテロ組織として壊滅をもくろむ。シリア国内にできた YPG にも不快感をあらわにし、トルコの矛先は、アサド政権よりは YPG へと向けられている。

JIM-NET のシリア難民支援は、2012 年に開始し、ヨルダンに逃れる主に反体制派を支持するアラブ人たちと、イラクのクルド人自治区に逃げてきたクルド人の両方の支援を行ってきた。しかし、日本社会では、「アサド独裁政権に弾圧されるシリア人を支援しよう」という流れが固定化し、クルド系シリア難民への関心や理解は高まらない。「シリア和平ネットワーク」は、シリアの

NEWS

JIM-NET アルビル事務所現地スタッフ・リームが来日しました！ シリア難民の「今」を伝えたい
リームさんをお迎えして

【イラク現地報告】新 JIM-NET ハウス、ただ今建設中！

【緊急支援報告】ヨルダンにおけるシリア支援の多様化

【イベント告知】2019 チョコ募金キックオフチャリティーイベント Give Peace a Chance!

鎌田代表のつぶやき『イラクの難民キャンプでスクワット』 鎌田 實 (JIM-NET 代表理事・医師) / 2019 チョコ募金、もうすぐ始まります！ 8

佐藤真紀 (JIM-NET 事務局長) 1

伊藤まり (WE21 ジャパン青葉・代表) 3

金澤絵里 (JIM-NET アルビル事務所スタッフ) 4

斉藤亮平 (JIM-NET 海外事業担当) 6

崔 麻里 (JIM-NET 広報・イベント担当) 7

和平を暴力によらずに実現しようと、日本国際ボランティアセンター（JVC）、サダーカ、ワールドビジョンと一緒にアドボカシーを行ってきた。様々な立場のシリア人の声を伝えるためにもJIM-NETが持つクルド系シリア人とのパイプは重要だ。

今回、JIM-NET スタッフ、リーム・アッバスを招へいしたのは、クルド系シリア人のことを知ってもらい、支援を訴えるのが目的だった（来日期間：2018年6月26日～7月6日）。

リームから寄せられた手記を紹介しながら、来日を振り返る。

【リームの手記―難民であること】

6月24日、私はアルビル国際空港へ金澤（JIM-NET アルビル事務所スタッフ）と娘のサービーンと向かいました。

出国審査の担当者は、私の在留許可証の提示を求めました。私は難民としての在留許可証*を持っていたので、出国することはできないと言われました。居住入国管理事務所で、旅行許可を出してもらうように指示されました。そのために、当初予定していたフライトをキャンセルし、出発は翌日になりました。

翌日の6月25日、私たちは入国管理事務所で在留許可証*を提出し、旅行の許可を得ることができました。その際、私がイラクへ戻る折は、再入国のためにビザが必要で私の難民としての在留許可*はキャンセルされ、新たにシリア人としての在留許可を取らなければならなくなりました。

午後4時に再びアルビル国際空港へ行ったところ、無事に搭乗ゲートへ向かうことができました。空港は大変混雑しており、気温は大変高くなっていました。

★日本の印象

6月26日、17時間の飛行時間の後に日本に到着しました。

翌日、東京の街を歩いてみると、日本の人たちは誰もがいつも忙しそうなのに気づきました。そして日本の人たちは、実際の年齢よりずっと若く見えました。

また、日本では誰もが規則に従い、すべてが整然としていました。イラクやシリアとは異なり、日本の人たちは、信号が青に変わるまで道路を横切ることもありませんでした。

日本到着の翌日から予定が一杯で、聖心女子大学で記者会見が予定されていました。サッカーのW杯で世界中が盛り上がり、シリアは今回出場できませんでしたが、日本に勝ってほしい気持ちで、日本のユニフォームを着て会見に臨みました。

会場には、JIM-NETが企画した「W杯から見た難民問題」という写真展があり、私たちが難民の子どもたちと一緒に作ったサカベコがスタジアムとして500体も飾られていたのは驚きでした。日本の人たちが日本から遠く離れたアラブの文化に興味を持ってくれ、アラブの子どもたちへの支援をしてくれることは、とても嬉しいことです。

記者会見では、記者の方々にJIM-NETのローカルスタッフとしての活動について紹介しました。JIM-NETが、がんの子どもたちとシリア難民への支援をしていることを話しました。

滞在中には多くのJIM-NET支援者の方々と会う機会があり、



会津美里市にできた応急仮設住宅跡地を訪問するリームとサービーンちゃん

がんの子どもたちと難民への支援を感謝することができました。シリア難民たちが抱える困難や「テロリスト」と誤解される悪いイメージがあるにもかかわらず、出会った方々はシリア難民への支援に積極的でした。私たちは決して「テロリスト」などではなく、個人の権利を要求する普通の市民であり、シリアの国土で大国が勝手にゲームをするような悲惨な状況になるとは、誰も思っていなかったと思います。

日本の人たちに私の母国・シリアについて、私の思いを伝えることができたことは幸せでした。日本の人たちは大変忙しいけれど、ほんの数分間でも良いので、私たちシリアの人たちのことを思い応援をしてくれるようにお願いしました。

東京滞在中は、様々な場所を訪れました。生まれて初めて電車に乗ったことは素晴らしい経験でした。というのも、電車は常に時間通りに動くからです。そして、身の回りにあるすべてに見られる日本のテクノロジーに感動しました。新幹線に乗る時は、速度が速いと聞いていたので少し怖かったのですが、実際に乗車すると大変快適で素晴らしい経験となりました。むしろ飛行機に乗っているよりもずっと快適でした。

★福島を訪ねて

福島県の会津を訪れ、「赤ベコ」を製作する荒井工芸所を訪問し、どのようにして赤ベコができるのかを実際に目にすることができました。工芸所は、驚きに満ちた場所でした。サイズも種類も豊富な赤ベコが作られていたのです。日本は最先端のテクノロジーを持つ国ですが、工芸所の赤ベコは熟練した手作業で作られており、それぞれが大変可愛いのです。

会津の鶴ヶ城と古くからある駅舎を訪れました。福島豊かな自然は本当に美しく、まるで古い日本のアニメの世界にいるような錯覚を覚えたくらいです。

また、仮設住宅を訪問しました。福島原発大事故の後、避難を余儀なくされた方々が暮らすための住宅地です。大変よくできており、清潔で整頓されていました。私が知るシリア難民が暮らすキャンプとは大きく異なっているように思いました。私が暮ら

した難民キャンプは、大変暑かったです。私はシリア難民なので、大きな災害で子どもたちや家族を失った方々がどれだけ大変な思いをされているのか、よくわかりました。しかし、日本では避難された年配の方が孤独死をされることが多いと聞き、驚きました。シリアでは家族の絆が強く、考えられません。

大きな災害に合った境遇にありながら、我慢強く生きることを諦めない福島の人々のように勇気を持ちたいと願います。福島の人々は、暮らしていた家やふるさとを失っても福島の文化や自然を忘れてはいません。

さらに、彼らは自然エネルギーを活かした新しい生活も構築しています。生きることへの希望への強い願いが感じられる一例です。福島県環境創造センターを訪問し、展示された資料を見るこ

とで 2011 年に起きた原発事故について具体的にイメージができました。

私は毎日、自分自身に言い続けています。

—「明日はよくなる」と。

最後に、シリアの人々への支援がより多くの日本の方々から得られること、そしてシリアの明るい将来を担う天使のようなシリアの子どもたちの存在を忘れないで欲しいと願っています。

今回、来日する機会を与えてくれた JIM-NET に感謝します。

(翻訳：JIM-NET 事務局)

リームさんをお迎えして

伊藤まり (WE21 ジャパン青葉・代表)

WE21 ジャパン青葉では、2005 年から JIM-NET のバスラ母子病院の院内学級を支援し、現在はチョコ募金や佐藤真紀事務局長からの報告を通じてイラク・シリアの情勢を聞いていましたが、今回、シリア難民であるリーム・アッバスさんのお話を直接聴く機会に恵まれました。

ダマスカスでの生活や夢、シリアからイラクへの避難の様子や、現在の JIM-NET での活動などを話していただきました。以前、シリアの内戦が激化するなかで、大きなカバン 1 つで家族とともに公共施設等の避難所に入っていくシリア人の様子、長い列をなして駐車場に入っていく自家用車、不安そうな表情の女性と子どもたちの画像をみたことがあります。思わず「あっ」と声をあげそうになりました。まさしくあの時の私たちでした。

実は、私も福島の原発事故により、自分の住んでいた地域を突然失ってしまいました。

残してきた多くのものたち…行き場のないやるせなさ、生活をして場所への望郷の念、遠く離れた見知らぬ土地での全く新しい生活。リームさんもきっと同じ気持ちでいるのだろうと、お話を伺いながら感じました。

話の中で「無関心が一番怖い。皆がシリアのことに関心を持たなくなっている。」とありました。

IS (イスラム国) がいなくなっても緊張は続いていて、まだまだ多くの支援、協力を必要としています。

私は 3.11、リームさんは内戦と IS の出現のあの時に過去と未来を同時に失い、その先は風まかせ。

でも風の吹く方向をきちんと見据えながら、進んで行かなくてはと思います。

今回、講演を開いたその日 (6 月 28 日) はリームさんの 25 歳のお誕生日。ケーキとお菓子で皆でお祝いをしました。もちろんかわいいサーベーンちゃんも一緒に。

非日常が日常となり、彼女の活躍の場が JIM-NET にあることを私も嬉しく思います。

リームさんの来日により、ますますイラク・シリアに無関心ではいられなくなりました。

このような機会をいただいたことに感謝いたします。



伊藤さん (左) に土産を渡すリーム (右)

シリア難民人道支援にご協力をお願いします！

ご寄付は、ミルク代や医薬品に使わせていただきます。

お振込先：ゆうちょ銀行振替口座
加入者名：日本イラク医療ネット

※備考欄に「シリア難民支援」とお書きください。

00540-2-94945

ご寄付はこちらから→
シリア難民支援 (イラク)
をお選びください。



新 JIM-NET ハウス、ただ今建設中！

金澤絵里（JIM-NET アルビル事務所スタッフ）

❖ 日差しが痛い！

いつも JIM-NET を応援してくださり、どうもありがとうございます。JIM-NET イラク・アルビル駐在員の金澤絵里です。こちらに着任してもうすぐ4ヶ月が経過しますが、毎日 45℃を超える気温にも負けず、お陰さまで元気に過ごしております。現在こちらは8月17日～25日まで、イードというイスラム教の宗教的な祝日で休暇となっています。現地の人々は、旅行に出かけたり、ゆっくり過ごされたり、それぞれこの長期のお休みを満喫されているようです。

日本では感じる事のない、暑いという感覚に加えて日差しが痛いという状況の中で日々生活しており、この状況がいつまで続くのか心配しておりましたが、地元の方々のお話によると8月下旬～9月頃には段々この暑さも落ち着いて過ごしやすくなるとの事

です。もうじき日々の暑さからも解放される予定ですが、その日がとても待ち遠しい今日この頃です。

❖ JIM-NET ハウスの進捗状況

現在も 45℃前後の日々が続いているとは言え、屋内で過ごすことが多いので、問題なく生活できております。一方、外に長時間居だけでも苦痛を感じるこの暑さの中で、体力勝負の建設現場で頑張ってくれている方々のお陰で JIM-NET ハウス（小児がん包括支援施設）の建設は現在まで着々と進んでおります。

2019年3月末日の完成に向けてどんどん建物が出来上がっていく様子を毎回見に行くのがとても楽しみです。

新 JIM-NET ハウスは、支援先であるナナカリ病院の敷地内に併設されており、主にナナカリ病院で治療が必要な患者さん家族



私が赴任した当初は、まだ更地で作業が始まる様子もなく、作業員の方々を目にする事もなかったので、今後どのような建物が完成するのかも全く想像できない状況でした（5月2日撮影）。



5月に入り少しずつ作業が始まり、その後しばらくしてラマダン（断食）がありました。ラマダンの最中は、日中作業しない代わりに夜から作業を行う等しながら、期間中も作業の手を休めることなく建設は進んでおりました。そして6月24日には、建物の支柱や外枠もしっかりと出来上がってきておりました。作業中も安全に配慮した上で建物の中に入る事が許され、作業員の皆さんによって一つ一つの仕事が丁寧になされているのを確認する事ができました（6月24日撮影）。



そして8月に入り、一気にここまで建物ができておりました（8月11日撮影）。建物の完成するその日がとても待ち遠しいです。

の宿泊施設としての役割を担う予定となっています。現在はモーターの部屋を借り上げて、遠方から治療に通うご家族に提供しておりますが、部屋の数とは言いえません。入院治療等を必要とする小児がん患者の家族のお父さんは付き添うことができないので、庭などの外で寝泊まりしている人が存在しているというのが現状です。そのため、心身共に疲れ果てるだけでなく、体調を崩してしまう事も心配されます。

JIM-NET ハウスが完成して多くの家族に利用してもらえらることで、少しでも安心して我が子に寄り添える環境を提供できれば嬉しいです。JIM-NET ハウスの建設現場の進捗状況はまた次回ご報告させていただきますので、お楽しみにしてください。

❖アリ君の手術

JIM-NET で支援している小児がんの患者のアリ君が、5月に足の手術が必要となり、手術費用の一部を JIM-NET が支援しました。手術後しばらくはベッド上安静で、身動きが取れず不自由な状態が続き、外来通院するにも2人の手を借りて移動が必要となり、その際もアリ君が病院へ通う際のお手伝いもさせて頂きました。

手術後の経過は良好で、足の状態が回復するに従って松葉杖での歩行が可能となり、徐々に手術した足にも体重をかける事が許

され、どんどん自由に動けるようになっていました。ずっとギプス固定されていた右足も、8月末にはそのギプスも取れるとの事で、少しずつ自分の足で歩けるようになる予定です。ずっと通いたくても通えなかった学校にも、主治医の許可が出て10月から通えるとの事で、アリ君は終始嬉しそうに笑顔でお話をしてくれました。がん治療や、その後の手術によってアリ君は長期間学校に行けない日々を過ごしていただけない、いよいよ学校に通えると期待を胸に日々過ごしています。

JIM-NET で支援している患者さんの中には、残念ながら幼くして亡くなってしまふ子どもたちも少なくないのが現状です。JIM-NET スタッフも、辛い現実に関胸を痛める場面も数多くあります。中でも患者さんの家族に寄り添いながら、日々活動を続けています。中には順調に回復し、学校に復帰できる患者さんたちも存在し、彼らが元気に学校に通う姿を側で見守れる事は、大変嬉しく思います。がんで苦しむ子どもたちのために少しでもお役に立てるよう、引き続きサポートを行っていききたいと思っております。

今後も引き続き、アリ君をサポートしていきたいと思っております。これからも JIM-NET の活動に皆様の温かい応援、ご支援をどうぞよろしくお願い致します。



手術翌日に JIM-NET スタッフがアリくんのお見舞いへ



元気になったアリ君のお宅を訪問

古本チャリティ募金はじめました！

【あなたの読み終えた本が、がんの子どもたちの命を救う】

読み終えた本、聞き終えた CD、もう見ない DVD を送っていただくと、査定額 +10% を「古本チャリティ募金」さんより JIM-NET にご寄付くださいます。本は手放し難いもの。。。しかし、この機会にぜひご協力いただけますと嬉しいです！

①本・DVD・CD を梱包します。



②ゆうパックの着払いで発送します。
(ゆうパック集荷電話：0800-0800-111)



◆送り先・お問い合わせ

〒112-0014 東京都文京区関口 1-47-12 江戸川橋ビル 本棚お助け隊 古本チャリティ募金係 03-6388-9301

品名欄に「JIM-NET 古本募金宛」とお書きください。

※本 / DVD / CD 以外の物品も引き続き『お宝エイド』で集めております！ <http://otakara-aids.com/program/jim-net.html>

ヨルダンにおけるシリア支援の多様化

斉藤亮平（JIM-NET 海外事業担当）

2011 年から始まったシリア紛争は、既に 7 年半が経過し、今なお不安定な情勢が続いています。紛争開始直後から多くのシリア人が避難してきたヨルダンでは、現在も 65 万人を超えるシリア人が生活を余儀なくされています。

国際社会ではシリア復興に向けた動きや各国の思惑に翻弄されるシリア国内の情勢が伝えられることが増え、大枠で捉えられた「シリア」の中に、シリア国内で暮らすシリア人や各国に逃れたシリア人の顔や声が見えてこない状況があるのではないのでしょうか。

JIM-NET では、これまで戦傷者に対する移送サービスや女性のためのリハビリテーションの提供、障がい者や負傷者の社会参加のための活動（障がい者スポーツ、人形劇、サマーキャンプなど）を実施し、ヨルダンで暮らす社会的に弱い立場におかれたシリア人への支援を行ってきました。プロジェクトとしては終了していますが、その後の継続支援やフォローアップについては皆さまの温かいご支援のもと実施することができました。改めて感謝申し上げます。

ヨルダンで暮らすシリア難民

2013 年までは 10 万人ほどだったシリアからの避難民の数は、2013 年に入ってから急激に増え、55 万人ほどにまで膨れ上がりました。2014 年には 60 万にまで達し、2016 年からは 65 万人ほどで推移しています。

「65 万人」とはおおよそ東京都足立区の人口（685,447 人※ 1）や島根県の人口（683,770 人※ 1）に匹敵し、ヨルダン国内だけでも現在これだけのシリア人が避難民として生活を送っていることに驚かされます。また 8 割ほどのシリア人はキャンプ外の都市部や農村部で生活をしており、彼らが直面する問題は避難生活が長くなるに連れ変化し、必要とする支援も多岐に渡ります。

日本ではヨルダンにおけるシリア難民についての報道される機会が少ないですが、久しぶりに現地に足を運んでみると避難生活に疲れたシリア人、職を得て前向きに生きるシリア人、シリアへと戻ったシリア人など多様なケースを目の当たりにしました。

※ 1 2019 年 1 月の統計

人口の半数以上がシリア人の町・マフラック

ヨルダン北部、シリアとの国境に面しているマフラックには 16 万人ほどのシリア人が住んでおり、シリア紛争が始まってからのマフラックの人口は半数以上がシリア人となりました。砂漠の中に作られた世界で 2 番目に大きい難民キャンプ（ザータリ難民キャンプ）があるのもマフラックで、砂埃が舞い、冬は 0 度近くまで下がる気候的にとても厳しい地域です。

首都からマフラック行きのバスに乗るとシリア人の隣になるこ



この周辺の村では 500 以上の家族が非公式キャンプで暮らす

とも少なくありません。先日もバスで隣になったアブダッラーさん（37 歳）も、シリアから逃れてきた当時のことから話してくれました。2013 年の 2 月、まだ寒い時期に妻と 2 人の子どもと道中凍えそうになりながら歩いてヨルダンまで来たことやキャンプでの生活について当時は振り返っていましたが、そうしたことはまだまだましだったと言います。

「徐々に国際機関からの援助も減り、仕事もなく精神的にきつい日々との闘いだよ。最近は感情が動くことも少なく、ただただその日を終わることだけでいっぱいだよ。」避難生活が続き、皆疲れ切っていると言ひ、ヨルダンに逃れたころは度々考えていた希望とか展望など今は考えなくなったと言います。

郊外の空き地にテントを張るシリア人

マフラックには都市部と難民キャンプだけでなく、郊外の空き地にテントを張って生活しているシリア人もいます（写真上）。彼らはシリアにいる頃からベドウィンの生活をしていたため、難民キャンプや都市部に住むというのが考えられなかったそうです。

ウムジュマル村の内務省長であるヨルダン人のアッターラ氏は、ウムジュマル村とその周辺の村の管轄しており、その村ごとにテントを張っている生活しているシリア人のケアなども行っています。

「国境が引かれるそれよりも前からシリア南部とヨルダン北部はホーラーンと呼ばれる同じ地域だったんですよ。だからマフラックの人とシリアの南部の人たちは文化的にも近く、部族意識の強い地域ですが昔は一族にシリア人がいることも珍しくありませんでした。地域によってはヨルダン人とシリア人の軋轢があると聞かすが、この辺りはそういうのが少ないんです。なので近隣住民がテントで生活するシリア人に食べ物や日用品のサポートをすることもあります。そういう理由からこの地域では空き地にテントを立て生活するシリア人たちが多いのかもしれない。しかし

問題も多く抱えています。」アッターラ氏に同行させてもらったシリア人へのインタビューでは、テントで生活する家族の問題が浮き彫りとなっていました。

アハマド君 11 歳（写真右）はヨルダンに来てからアレルギー症状に悩まされているのですが、病院に行くまでの交通費や検査費（特殊な検査が必要）が払えないと言います。援助機関がモバイルクリニックをやっていたこともあるそうなのですが、やはり特殊な検査などは病院に行かなければなりません。以前よりもシリア人の医療費も値上がりしていることもあり、現金収入のない一家には病院に行くことさえも大変だと言います。

これからの支援とシリア和平

一言で「難民」と言っても、それぞれ家庭環境や経済状況、バックグラウンドが異なり、必要としている支援も異なるでしょう。社会サービスの提供を必要としている人たちもいますし、医療費や病院までの交通手段を必要としている人たちもいます。紛争から 7 年半が過ぎた今、以前とは必要とされる支援も変わってきているように感じられます。JIM-NET ではこれからも医療だけでなく、心身の健康に関わる支援を通してシリアの和平をシリア人と共に作り上げていくアドボカシー活動も行なっていきたいと



アハマド君 11 歳。治療費や交通費を払えないシリア人も少なくない

思います。

シリア和平に向けた発信に厚みを持たせるためにも支援活動を通してシリア人の声を伝えていきますので、引き続きシリア支援にご協力いただければ幸いです。なお、イラクやヨルダン、シリアをもっと身近に知ってもらおうと中東家庭料理教室も不定期で開催してまいりますので、そちらの方もぜひよろしくお願いいたします！

2019 チョコ募金キックオフチャリティーイベント

Give Peace a Chance!

日時：2018 年 11 月 9 日（金曜日）19 時～

出演：いちよ・きよ・やぎりんバンド、湯川れい子さん、斉藤とも子さん、荻野仁子さん、相澤恭行さん、鎌田實（JIM-NET 代表理事）、佐藤真紀（JIM-NET 事務局長）

会場：南大塚ホール（定員 267 名）

※詳細はホームページ、Facebook をご覧ください。

「チョコ募金」は、JIM-NET が現地で活動をする大切な活動資金であり、同時に病気に負けず、生き生きとした絵を描く子どもたちを広くご紹介する役割も果たしております。

2016 年から開催しているチョコ募金キックオフイベントは、JIM-NET を様々な形でサポートして下さっているゲストとともに現地の様子、チョコ缶の絵を描いた子どものお話などをお伝えする貴重な場として企画して参りました。

11 月にご出演くださるケーナ奏者・やぎりんさんは、2015 年のイベントでクミコさんが熱唱された「広い河の岸辺」の訳詞を手がけられ、クミコさんとともに演奏頂いて以来のご縁が続いております。毎年、11 月から翌春の「チョコが無くなる」まで、ご自身のコンサートでチョコ募金をご紹介くださり、おかげさまでチョコの輪が広がっています。

今回は、「いのちと平和の詩～ Song For Life and Peace」をテーマに活動を続けていらっしゃる、いちよ・きよ・やぎりんバンド（うた＋ギター＋ケーナ）の皆さまが世界で親しまれる曲の数々を演奏くださいます。今年のチョコ缶のテーマ「たんぽぽ」に合わせ、「愛は花、君はその種子」（A. マックブルーム作 / 高畑勲・訳詞）も選曲していただきました。曲が生まれた時代背景や使われる楽器に関するミニトークもお楽しみに！

また、アラブ音楽を紹介されながら JIM-NET を応援下さっている荻野仁子さん（ウード奏者）、相澤恭行さん（ギター・歌）のおふたりにも、スペシャルな曲を演奏して頂く予定です。1 年に一度だけのキックオフイベント、お誘い合わせの上、ご来場ください。



漫画：小澤一雄

鎌田代表のつぶやき イラクの難民キャンプでスクワット

イラクの難民キャンプは暑かった、42度。熱風が塊になって吹いていました。

再三入国申請したが、イラク国内の混乱で、ビザが下りなかった。ほぼ1年ぶりに入国が叶ったが、過酷な暑さが体力を奮ってゆく。キャンプ生活を余儀なくされている人たちの健康を守るため、ダラシャクランの難民キャンプで、健康の講演会をしてきた。もう4回目だ。何人かは顔なじみです。

健康になるための4つの目標を説明しました。

①減塩。中東はけっこう塩を使います。塩を使う、ここを注意しました。

②野菜。外国や国連の支援物資は、小麦、砂糖、油。炭水化物が中心なので、糖尿病が多くなる。キャンプの中で、露店で野菜もけっこう売っている。手に入る人は野菜を採ろう、と話しました。

③生き甲斐。人のためになることをすることが大事だ、と話した。アメリカのカーネギー・メロン大学が「ボランティアをする人は40%高血圧リスクが低い」という論文を発表している、と話しました。

④スクワット。ウォーキングも勧めたいところだが、暑い日は44度になる。熱中症の危険がある。テントの中でできるスクワットと、かかと落としを、実際にみんなに立ち上がってもい実践してもらった。緊張がほぐれ、みんなから笑顔が出てきた。テントの中でできるスクワットと、かかと落としは、好評でした。

「貯金は無理でも、貯筋はできる」と言うと、みんな大笑い。「スクワットをすると筋肉作動性物質のマイオカインという物質が出



キャンプの中で健康づくり運動

て、がんや脳卒中や、うつ病が減る」と話すと、みんなやる気満々。かかと落としは誰でもできる、と話しながら、オステオカルシンという、骨粗しょう症の予防やメタボの改善にいいと言われているホルモンが出てくる、と話した。みんな興味津々。世界中の難民キャンプで、健康づくり運動をしたり、スクワットやかかと落としをしている NGO は他にいないのではないかと思います。

自分の健康や命を大切に思って、毎日の生活を少し変えることは健康につながるだけではなく、その積み重ねが他者の命も大切と考えるようになり、平和につながっていくのではないかと信じています。これを「健康民主主義」とぼくはよんでいます。これから健康づくり運動をやっていこうと考えています。JIM-NET への応援を期待しています。ぜひぜひ、よろしくお願いします。

2019 チョコ募金、もうすぐ始まります



今年も暑い夏が終わり、体調など崩されてませんか。まもなくチョコ募金の季節が近づいてきました。デザインも出来上がり、皆さまにいち早くご紹介いたします。

♥ 2019 チョコのテーマ

『たんぽぽ ～花は枯れても種は世界に広がり、命はつながる～』

2017年1月までイスラム国（IS）に占拠されていたモスルの街はがれきと化していました。そのモスルにあるイブンアシール病院も例外ではなく、戦争前には、きれいな花がたくさん咲いていた庭も、がれきに埋もれていました。その中で唯一咲いていたのが、たんぽぽでした。

たんぽぽは、花が枯れても綿毛になり種を遠くまで飛ばし、

次の命につながります。今回は、4人の子どもたちにたんぽぽを描いてもらいました（写真）。

♥今年のJIM-NETは

JIM-NETでは、がんの子どもだけでなく思春期の闘病中や、治療を終えた人々のサポートも実施しています。特にA世代（Adolescent）と呼ばれる12歳から18歳くらいの思春期・若年成人を中心に、心のケアや学習支援などを充実させていきたいと考えています。数年前からチョコ募金の絵を描いてくれている子どもたちにも、A世代が増えています。

また、現在アルビルのナナカリ病院敷地内に建設中の、がんの子どもと家族のための包括支援施設「JIM-NETハウス」が2019年に完成する予定です。JIM-NETが支援をスタートして、来年で15年となりますが、まだまだ現地では支援が必要です。たんぽぽの綿毛のように、皆さまのご支援が現地の子どもたちに届くよう、チョコ募金へのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

特定非営利活動法人 日本イラク医療支援ネットワーク (JIM-NET) 電話 03-6228-0746 メール info-jim@jim-net.net
Facebook アカウント名、『jim-net』で検索 Twitter アカウント名、『JIM_NET』で検索 HPはこちらのQRコード→
郵便振替口座 00540-2-94945 加入者名 日本イラク医療ネット（募金・サポーター会費はこちらへお願いします）

★ぜひ今後とも JIM-NET をご支援ください！

